

フィリピンに現法

金型製造 日系受注増に対応 栄プリント研 協技

【立川】協栄プリント技研(東京都調布市、小林明宏社長、042・484・2151)は、フィリピンに進出する。月内に現地法人を設立し、日系メーカー向けにプリント基板用金型や電子部品用金型などを製造する。2017年7月に稼働する予定。日系メーカーからの受注が好調で、受注量は14年比で約4倍に伸びているという。現地生産に乗り出して価格競争力を高め、需要増に備える。19年12月期にフィリピンで売上高3億円を目指す。



より、日本から輸出した場合に比べ、製造のリードタイム短縮や輸送コストの削減効果で

「製品単価を約25%低減できる」(同)とみている。月内に設立する「KYOEI DIE TEC H PHILIPPINES」は、協栄プリント技研が全額出資する。資本金は5500万円。現地法人の社長は同社のベトナム工場から派遣する。会長には小林社長が就任する。

資する。資本金は5500万円。現地法人の社長は同社のベトナム工場から派遣する。会長には小林社長が就任する。

工場は鉄筋2階建てで、延べ床面積は約860平方メートル。1階部分にマシニングセンター(MC)や放電加工機、研削盤などの工作機械を約20台設置する。総投資額は約1億円。スタートアップ期間に20〜30人を計画。ベトナム工場からベトナム人エンジニア3人を派遣し、事業開始時の初期費用を抑える方針だ。プリント基板メーカーや電子部品メーカーなど複数の顧客から受注を獲得できるめどが立ったため、現地法人設立に踏み切った。

▲年内に設立するフィリピン現地法人